

(4) 実践事例

ア 実践事例①A校 (第2学年)

「?」  
 A教諭  
 学級の児童は、どのステップに当てはまるかな?確かめてみよう!  
 そして、ステップアップするための手立とは…?

《10月》

「授業改善ステップ表」 「手立て一覧表」

※「授業改善ステップ表」と「手立て一覧表」は、トップページからダウンロードできます。

★ 本単元における授業改善の流れ (単元前)

授業改善の流れ	A教諭の意識	「授業改善ステップ表」と「手立て一覧表」の活用																				
(1) 児童の実態把握	<p>何を習得する単元か、児童は分かっているか。</p> <p>自分の考えを見直すことはできていない。</p> <p>課題を解決するために何をすべきか児童は考えていない。</p> <p>振り返りの根拠が曖昧だ。</p>	<p>「授業改善ステップ表」と「手立て一覧表」の活用</p> <p>A教諭によるチェック (☑)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>ステップ①</th> <th>ステップ②</th> <th>ステップ③</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td></td> <td>☑</td> <td></td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>☑</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>C</td> <td></td> <td>☑</td> <td></td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>☑</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		ステップ①	ステップ②	ステップ③	A		☑		B	☑			C		☑		D	☑		
	ステップ①	ステップ②	ステップ③																			
A		☑																				
B	☑																					
C		☑																				
D	☑																					
(2) 教師の課題把握 (目指す児童の姿の設定)	<p>今のステップと、次の段階のステップを見比べると、今の授業の改善点分かるよ。目指す児童の姿が具体的に設定できるね。</p> <p>低学年だけど、観点Cはステップ③に挑戦させたいな。</p>	<p>各観点で目指す児童の姿 (次のステップ)</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>③</td> <td>身に付ける力を意識して単元のゴールを見通す</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>②</td> <td>自ら問いを立て、解決方法を考える</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>③</td> <td>対話を通して、考えをより確かなものにする</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>②</td> <td>理由や根拠を挙げて振り返る</td> </tr> </tbody> </table>	A	③	身に付ける力を意識して単元のゴールを見通す	B	②	自ら問いを立て、解決方法を考える	C	③	対話を通して、考えをより確かなものにする	D	②	理由や根拠を挙げて振り返る								
A	③	身に付ける力を意識して単元のゴールを見通す																				
B	②	自ら問いを立て、解決方法を考える																				
C	③	対話を通して、考えをより確かなものにする																				
D	②	理由や根拠を挙げて振り返る																				
(3) 本単元で取り入れる手立の選択	<p>「手立て一覧表」には、ステップアップのための手立がいくつか挙げられているね。今回は、この手立を取り入れてみよう!</p>	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>h'、j</td> <td rowspan="4">単元前にd、単元後にwの手立ても使えそう…</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>m、n</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>o'</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>j'</td> </tr> </tbody> </table>	A	h'、j	単元前にd、単元後にwの手立ても使えそう…	B	m、n	C	o'	D	j'											
A	h'、j	単元前にd、単元後にwの手立ても使えそう…																				
B	m、n																					
C	o'																					
D	j'																					

手立を取り入れた授業の実際は、次頁から見るすることができます。

第2学年

「どうぶつのひみつを見つけて、『どうぶつすごいぞクイズ』を作り、クイズ大会をしよう」

～クイズ作りを通して、教材文や本、図鑑等を読み、知りたいことに関係のある大事な言葉や文を見付ける～

★単元目標

○クイズ作りを通して、教材文や本、図鑑等を読み、知りたいことに関係のある大事な言葉や文を見付けることができる。

★単元計画

学習過程	時	主な学習活動	指導上の留意点（記号：手立て一覧表）	
単元前			<ul style="list-style-type: none"> <li>動物に関する本や図鑑等を教室に置くことで、いつでも読めるように読書環境を整える（<b>d</b>）。</li> </ul>	
一次（つかむ）	構造と内容の把握	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教師自作の「どうぶつすごいぞクイズ」を通して、学習の見通しをもつ。</li> <li>○学習課題と学習計画を立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師自作のモデルを用いてクイズを提示することで、児童に単元のゴールで身に付けるべき力に気付けるようにするとともに、児童の意欲を喚起する（<b>h'</b>）。</li> </ul>
		2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教材文を読み、内容の大体をつかみ、ビーバーについて「すごいな」、「不思議だな」と思った部分に線を引く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「どこで」、「誰が」、「どのように」、「何をしている」などに着目させることで、ビーバーの行動を捉えることができるようにする。</li> </ul>
二次（深める）	精査・解釈、考えの形成	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○クイズの問題と答えを作るときの手順について、教師自作のクイズの例を基に考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クイズの問題と答えを作るときの手順について、教師自作のクイズを提示することで、元の文と問題の答えの関係に気付くことができるようにする（<b>h'</b>）。</li> </ul>
		4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「木をきりたおすビーバー」について、「ビーバーすごいぞクイズ①」を学級全体で作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師がクイズとして改善の余地が残る例を示すことで、クイズ作りの観点を明確にする（<b>h'</b>）。</li> </ul>
		5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「ダムを作るビーバー」について読み取り、「ビーバーすごいぞクイズ②」を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クイズ作りの観点を基に、到達基準を提示することで、本時のゴールへの見通しがもてるようにする（<b>j</b>）。</li> </ul>
		6	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「すを作るビーバー」について読み取り、「ビーバーすごいぞクイズ③」を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>板書と対応したワークシートを作成することで、児童が考えを整理しやすいようにする（<b>n</b>）。</li> </ul>
		7	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「ビーバーの大工事」のクイズ作りを通して分かった「すごい」ところを確かめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時までに作ったクイズを整理する時間を確保することで、大事な言葉や文に着目するときのポイントを整理できるようにする（<b>m</b>）。</li> </ul>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">二次（深める）</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">精査・解釈、 考えの形成</p>	<p>8 ○本や図鑑などの探し方や調べ方について知り、他の動物について調べる。</p> <p>9 ○興味をもった動物について書かれている本や図鑑を選んで読む。</p> <p>10 ○選んだ本や図鑑から、クイズを作るためのメモを書く。</p> <p>11 ○調べたことやメモを基にして、自分の「(動物名) すごいぞクイズ」を作る。</p> <p>12 ○調べたことやメモを基にして、自分の「(動物名) すごいぞクイズ」を作る。</p> <p>13 ○中間発表会として、グループで「どうぶつすごいぞクイズ」を出し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書を基に考えさせることで、調べる方法に気付くことができるようにする。</li> <li>児童が選んだ本や図鑑から、必要と思われる部分をコピーして渡すことで、児童が大事な言葉や文を見付けやすいようにする。</li> <li>書名や作者名、書き抜いた部分について、児童が整理しやすいメモを配付する。</li> <li>教師自作のクイズを提示することで、第二次で学んだクイズ作りの観点を想起することができるようにする（<b>h'</b>）。</li> <li>友達が作ったクイズのよさや改善点について対話させることで、自分のクイズの再検討を促す（<b>o'</b>）。</li> </ul>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">三次（まとめる）</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">共有</p>	<p>14 ○1年生に向けて、「どうぶつすごいぞクイズ」大会を行う。</p> <p>15 ○単元を振り返り、話し合い学習をして分かったことや身に付いたことを確かめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観点を与えた上で友達のクイズのよさを振り返らせることで、身に付けるべき力を意識することができるようにする（<b>j'</b>）。</li> <li>大事な言葉や文に着目しながら本や文章を読むことの大切さについて振り返らせることで、次の学びに生かすことができるようにする。</li> </ul>
<p>単元後</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>単元で習得した「本、図鑑等を読み、知りたいことに関係のある大事な言葉や文を見付ける」ことを生かして、冬の生き物についてのクイズを作らせる（<b>w</b>）。</li> </ul>

「手立て一覧表」に挙げられた手立ては、単元の第一次～三次のどの過程で取り入れるべきかも示してあるから、単元計画を立てるときのヒントになるね。



次頁からは、単元で取り入れた手立てのうち、特に成果が見られたものを中心に、授業の実際を紹介しします（「★手立てを取り入れた授業の実際」）。

★手立てを取り入れた授業の実際

第一次  
①/15

**A 身に付けるべき力を意識して、単元のゴールを見通す。**

**h'** モデルを提示することで、学習のゴールで身に付けるべき力に気付けるようにする。



昨日、動物についての図鑑を読んでいて、すごいなと思ったことがありました。みんなにも教えたくてクイズにしてみましたので、聞いてください。

(モデルの問題部分のみを提示)

「ウサギの耳は、どうして長いのでしょうか」。

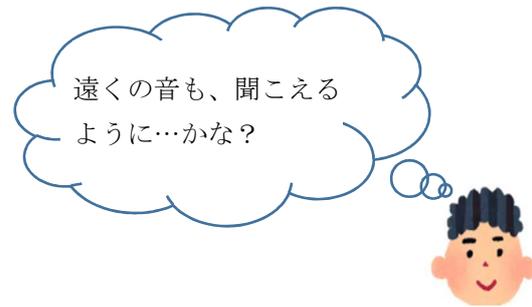
( うさぎ ) すうすうクイズ！

**もんだい**

うさぎの耳は、どうして長いのでしょうか。

**こたえ**

自分をねらっているてきがないか、小さい音まで聞きのがさないレーダーのようなはたらきをするためです。また、体の中の熱を外にたくさんにがすためでもあります。



資料 1 教師自作のクイズの一例 (モデル)



答えを言います (モデルの答え部分のみを提示)。

「自分をねらっているてきがないか、小さい音まで聞きのがさないレーダーのようなはたらきをするためです。また、体の中の熱を外にたくさんにがすためでもあります」。

そうだったんだ。知らないことを知ることができて嬉しい。私も、ほかの動物のすごいところを見つけて、先生のようなクイズを発表したいな。



単元導入時、動物のひみつ (すごいところ) に関するクイズを作るという言語活動への関心を高めるため、教師自作のクイズを数問出しました (資料 1)。

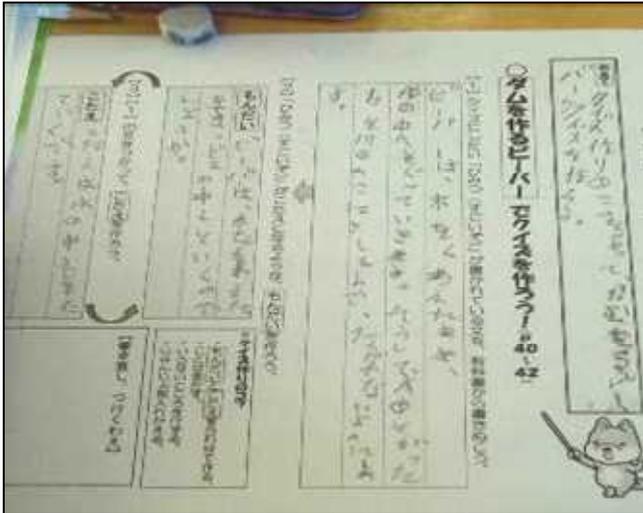
クイズのモデルを口頭と文章とで提示したので、児童にとって、単元のゴールが明確になり、「クイズを作ってみよう」、「そのために動物のことをもっと知りたい」と意欲的になることができました。このモデルは、単元の学習の期間、掲示しておき、いつでも見られるようにしました。



第二次  
④⑤⑥⑦  
／15

**B 課題を解決するための方策や道筋について、児童が自ら考える。**

**n** 板書やワークシートを工夫することで、自分の考えを整理できるようにする。



資料 3 児童のワークシート

板書と対応するように、ワークシートを作成したことで、児童が考えを整理しやすくなりました（資料 3）。また、これまでに学習した「クイズ作りのコツ」といった、既習の学習内容も合わせてワークシート内に載せることで、活動に停滞した児童への助けとなるようにしました。

自分の考えを書く枠だけでなく、友達との交流の中で出た修正内容や付け加える内容が書けるような枠も設けることで、授業の中での自身の考えの跡が残せるようにしました。

※本単元で用いたワークシートは、サイトマップから印刷することができます。（Word 形式）

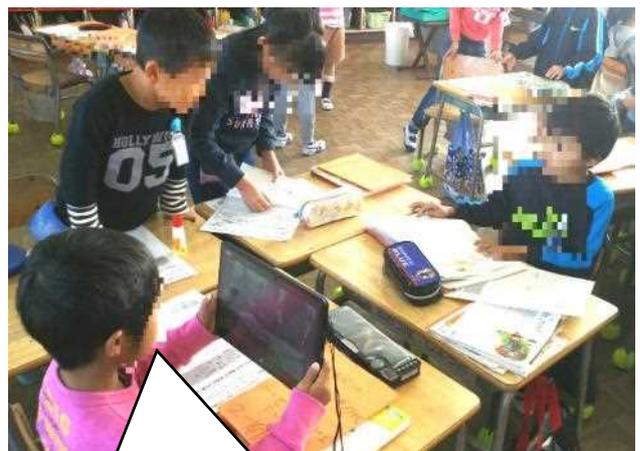
第三次  
⑬／15

**C 対話を通して、考えを確かなものにしたり、見直したりする。**

**o'** 中間発表で他者から質問や助言を受ける場を設定することで、課題の解決に向けた再検討や修正を促す。



「問題」と「答え」がきちんと合っていて、「です・ます」の丁寧な言葉も使っているよ。答えをもう少し詳しく書けるといいね。



しっかり相手を見てクイズを出すことができているね。声の大きさもちょうどいいよ。問題と答えの間は、もっと間を取った方がいいよ。

資料 4 動画を再生して話し合いを振り返る児童



**単元後**

**W** 単元で学んだことについて、日常生活の中で活用する場を設定することで、学びの習熟を図る。

本単元の学習後、「本や図鑑等を読み、知りたいことと関係のある大事な言葉や文を見付ける」ことを生かし、生活科の単元「冬の生き物をしらべよう」で生き物や植物について、保護者に向けたクイズ作りを行いました（資料 6）。冬の生き物や植物について、本や図鑑を使って調べ、文の中から見付けた大事な言葉を基に、クイズを作ることができました。調べる際には、自分が調べたい内容にあった本や図鑑を選び、目次から必要な箇所を探すなど、調べ方が身に付いてきていることが感じられました。



資料 6 保護者に向けたクイズ大会の練習の様子

★本単元における授業改善の流れ（単元後）

授業改善の流れ	A 教諭の意識	「授業改善ステップ表」と「手立て一覧表」の活用
---------	---------	-------------------------

(4)

取り入れた  
手立ての  
有効性の検討

- 改善の余地がある例と、教科書のモデルとを対比的に提示したことで、児童は、身に付ける力を明確にすることができた（**h'**）。
- 板書と対応するようにワークシートを作成したことで、児童が考えを整理しやすかった（**n**）。
- 観点に沿って互いのクイズを見直したことで、内容をよりよく修正することができる児童が半数近くいた。また、タブレットで記録した動画を見返すことで、自身の発表を客観視することができた（**o'**）。
- 指導事項の内容を踏まえて設定した到達基準を基に、できるようになったこと、分かったこと、次に頑張りたいことについて記述させた。それにより、具体的に学習を振り返る姿が見られた（**j'**）。
- 学習のゴールに向けて、何をどのようにするのかを考えることはできるようになってきたが、考えの再構築や応用にまでは至っていない（**m**）。
- 到達基準の文言にあった「クイズ作りのコツ」の内容が、具体的に何を示すのか、児童に明確に伝わっていなかったため、振り返りの根拠が曖昧になることもあった（**j**、**j'**）。



観点 A、B、D は、単元前より 1 つずつステップアップできているぞ！

単元前の児童（✓）と本単元での児童（◆）

	ステップ①	ステップ②	ステップ③
A		✓	◆
B	✓	◆	
C		✓◆	
D	✓	◆	

(5)

次の単元に向けた  
手立ての検討



毎時間、板書と対応させたワークシートを作成したことで、児童が考えを整理しやすくなったと感じたよ（**n**）。  
次の単元では、中間発表で友達から助言を受ける **o'** の手立てについて、グループ編成に留意しながら、再度取り入れることで、観点 C をステップアップしたい！！